

胡蘿蔔

蛭ノ血ドメト クサマチン勢州鶴ニ毒ス ヨロヒグサ佐渡 フニゴケ江都 チヤウチン
ス故ニ名ク、
ゲサ越後 一名土芫荽方簡便 嗜星草藥性 野園石胡荽本草 碎米草吳氏食 地光錢郡武
人家庭際墻側盆中多ク生ズ、小草ナリ、地ニ就キ蔓ヲ引葉圓カニ五岐ニシテ鋸齒アリ、大サ三四
分、淡綠色ニシテ光リアリ、蔓ニ互生ス、葉ゴトニ鬚根ヲ下シ、地ニ入ルコト深ク拔去リ難シ、夏月
葉間ニ一分許ノ小毬ヲ生ズ、楊梅ノ形ノ如ク綠色、即小花ノ聚ルナリ、後實ヲ生ズ、落テ自ラ生ズ、
其野外路旁ニ生ズル者ハ、葉大サ一寸許ニシテ、ツボクサニ混ジ易シ、

〔多識編三〕胡蘿蔔、今案世利仁牟志牟。

〔和爾雅七〕胡蘿蔔、野胡蘿蔔。

〔書言字考節用集六〕胡蘿蔔、時珍云、元時始自胡地、
來氣味微似蘿蔔、故名。

〔和漢三才圖會九十九〕胡蘿蔔、中
葷草

按胡蘿蔔、六月下種、秋食、苗冬食根、味甜而不辛、有赤黃二色、黃者生沙地、就中自遠州出、深赤色者、攝
州生玉邊、亦出赤色者、唐人呼曰紅胡蘿蔔、今四時種之、茄秧葉、凡根略似人參、故倭唯稱人參、終不改、

〔續昆陽漫錄〕胡蘿蔔

胡蘿蔔は形の人參に似たるを以て、我國の俗、人參と云ふと思ひしに、先年八住順庵の話に云く、
明錢希言集曰、治疾當得真人參、反得支羅服、當服麥門冬、反得丞橫麥、三代以下皆以支羅服丞橫麥、
合藥病日疔而遂死也、按潛夫論如此、支羅服疑今小朱蘿蔔也、吳越間有之、謂之丁香蘿蔔、其形如參、
故誤用耳、丞橫麥疑即本艸穢麥是矣、陶弘景曰、根似穢麥、故謂之麥門冬、以訛傳訛、曷所底止、按
論、治疾當得人參、反得支羅服、當得麥門冬、反得丞橫麥、已而不識、眞合而服之、病以侵、
劇、不自知爲人所欺也、云云、三代以下皆以支羅服丞橫麥、合藥病日疔而遂死也、に作る、とこれにて
觀れば、小朱蘿蔔は胡蘿蔔にて、人參に代へしゆえ、我國にて人參と云ふなるべし、胡蘿蔔味甘美
にして、極めて補益の功あるべければ、人參に代たればとて、何ぞ病日に疔して遂に死するに至